

## 「みえの現場・すごいやんかトーク（四日市市）」の概要

3月10日（土）に県四日市庁舎で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、地域の防災力向上に取り組まれている「みえ防災コーディネーター三泗ブロック」の皆さん12名の方にお集まりいただき、活動内容や成果、行政へ期待していることなどのお話をお伺いしました。



### 【参加者の発言】

参加者の皆さんから、以下のような意見をいただきました。

四日市市内の小学校に出向いて防災土鍋を用いた防災教育に取り組んでいる。作って食べられるというような楽しさも覚えていただきながら、ご飯が出来るまでの時間を利用して、クイズ形式で防災についての知識を伝えている。話を聞いた子どもたちは家に帰って「僕の家（家具の固定）は大丈夫」などと親に話してもらうことで、子どもを通じて大人の防災意識を高めることにもつながっている。

子どもたちに何とか体験させながら理解してもらいたいとの思いから、小学生を相手に活動に取り組んできた。四日市市内の約半数の小学校 20 校、約 2,000 名の方に体験してもらうことができた。

伊勢湾は湾に囲まれているから津波は大丈夫と思い込んでいる人も多く、そういう人に防災教育をすることは難しいと感じている。

行政から防災マップとか浸水予測図など各家庭に配付されるが、配付された時は見るが、時間が経つとどこにあるかわからない家庭も多くある。防災訓練もそうだが、訓練の規模が大きくなればなるほど一般住民が参加する機会は少なくなってしまう。そこで、私たちの地区では、小さな単位で実施し、全員が参加できるよう、また、1 回だけでなく繰り返し訓練を行っている。

行政の担当者の中には、もう少し防災について勉強してもらいたいと感じる人もいる。2、3 年経てば他のところに配属されることから、難しいところもあるが、担当者によって対応の仕方、スピードが違ってくる。新しく防災担当になった職員の研修を実施し、1 週間ぐらい集中的に勉強させてもらえると良いと思う。

いざという時に、職員とその家族が全員無事でないと住民を守ることはできない。トップから防災に対する備えなどを指示してもらうことが非常に有効だと思う。



【知事の発言】

知事からは、以下のような発言がありました。

行政全般に言えることだが、災害に限らずあまり良くないこととか問題が発生すると、だいたいこんなもんだろうというふうを考える傾向がある。無駄足になっても良いので、まず最大どれだけ悪いことが起こる可能性があるのかということを出発点に動くよう職員に言っている。

子どもを通しての防災教育は効果があると考えており、2月に県内の全小中学校と特別支援学校に防災ノートを配った。4月からは、新たに専門の職員を配置して、防災ノートの普及など子どもへの防災教育にしっかり取り組んでいきたい。

職員の中でも、非常に意識が高く独自に資格を取ったりしている人もいるが、基礎知識がないままに防災行政に携わってしまう人もいる。各基礎自治体で防災力を高めてもらうための専門性とか、そういう意味での補完をしていくことが広域自治体の役割なので、県民センター単位でやるか県全体でやるかは別にしても、良い意見をいただいたと思う。

今日の発言の中でも、「子ども」「繰り返し」「小さな単位」などいくつかのキーワードがあったが、そういうことを大切した取り組みを進めていかないと皆の意識が変わったり、皆がそういう行動に移すことができないのだと改めて思った。